

**鋼橋技術研究会
リフォーム研究部会
報 告 書**

平成8年3月

リフォーム部会報告書発刊にあたって

鋼橋技術研究会の技術委員会において橋梁のリフォームがテーマとして採択され、部会が設立されてから3ヶ年が経過した。その間、各機関の中堅の設計者を中心とした委員は以下の3テーマについて精力的に活動され、その成果を報告書としてとりまとめた。

荷重増加：B荷重にたいする鋼橋の診断と補強（Aグループ）

幅員拡張：分離・一体タイプの比較と選定要領（Bグループ）

再利用：再利用する場合の事例と提案（Cグループ）

従来、一貫して流れていた橋梁建設の考えには、古くなったら更新する、容量が不足したら、架け換えと言ったものではなかったろうか。しかし、わが国の既設橋梁の膨大なストックはこのような安易な考えでは交通施設の健全な維持管理を行えないことを示している。また、昨今のわが国の経済事情はより新しい考えにより管理することを求め、さらにその要求は新設橋梁にもより優れた耐久性を求めるに至っている。

本来、橋梁は新設されたときに既に計画・設計・施工の優劣によりその耐久性は定まっていると理解すべきもので、それに使用条件の経年変化や維持管理に良否によって具体的な余寿命は決まるものであろう。そのため、橋梁のリフォームをテーマとして取り上げる場合、対象橋梁はすべて条件が異なる筈であり、問題を一律に論ずることは大変困難であると思われる。また、リフォームと言うテーマ自体は得てしてマイナス指向と取られ勝ちで、事故の記録と同様に、資料の整備は積極的には行われない傾向がある。

このような困難な背景の中で、積極的に資料の収集・整理・解析に当たられ、報告書として取りまとめられた委員各位の3年間の労苦に対して心から謝意を表する次第である。今回取り上げたテーマの重要度は、海外の事情を見ても首肯できるように、今後ますます増大するものと考えられる。本報告書に示された各種の資料は今後の類似の問題の解決に対して有用な情報とヒントを与えるものとして広く活用されることを期待する次第である。

平成8年3月

鋼橋技術研究会リフォーム部会
成田 信之